

～宇都宮ブランドの展開で
市のイメージの明確化・向上に取り組む～



店ごとにさまざまな個性があるのも宇都宮餃子の大きな魅力です



昨年、市制 120 周年を迎えた宇都宮市は、北関東最大の都市。第二次・三次の諸産業の発達とともに、長い歴史と豊かな自然の存在が、市の多彩な魅力を形作ってきました。少子高齢化の現代にあって市の人口は今も増加を続けており、今年 7 月には 52 万人を突破しました。

宇都宮市では早くから市の認知度・付加価値向上に向けた活動に取り組んでおり、現在も「宇都宮ブランド戦略」を積極的に推進しています。人口増や企業進出等はその成果といえるでしょう。しかし今後、少子高齢化の一層の進展とともに推計人口は漸減傾向に転じると見られており、市では出生率向上の取り組みなどとともに、これからの人口規模・構造や都市活動に見合った都市の姿として「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を掲げ、新たな方向性を模索しています。

[宇都宮市]

個性豊かな県内各市町を紹介するこのページ。今回は、県政の中心にして餃子、カクテル、ジャズ、自転車とさまざまな文化が根づく街、宇都宮市をご紹介します。



News

「うつのみやイルミネーション」

11月の第3木曜日を皮切りに年明けの1月15日まで、シンボルロードやオリオン通りの街路樹など、市の中心部は約20万個のLED電球による鮮やかなイルミネーションで彩られます(毎日、午後5～9時【一部午前1時まで】点灯)。

平成18年から実施されている企画ですが、今では宇都宮の晩秋から初冬の恒例イベントとして定着しました。

「住めば 愉快だ 宇都宮」～暮らしを彩る多彩な魅力にあふれた街

宇都宮といえば、「餃子の街」だったのは、昔の話。現在、宇都宮市では「100年先も誇れるまちを、みんなで」を合言葉に、市の持つ新旧の多彩な魅力の発信・浸透活動を進めています。今の宇都宮はカクテルの街であり、ジャズの街であり、そして自転車やサッカー、バスケットボールなどの地域に密着したプロスポーツが展開される街でもあります。こうした市のアイデンティティや歴史、自然を一体としてPRするのが「宇都宮ブランド戦略」です。

餃子の街

宇都宮に本拠を置いた陸軍第14師団の軍人が、駐屯した満州から本場の製法を持ち込んだのが始まりとされる宇都宮の餃子。現在、市内の約300軒で食すことができます。



▲宇都宮餃子祭り

カクテルの街



▲宇都宮のオリジナルカクテル

カクテルの全国大会で、銀座に次ぐ数の優勝者を輩出してきた宇都宮。一過性のブームではなく、1970年代以来、バーテンダーが互いに研鑽を重ねてきた成果です。市内のバーが集う「宇都宮カクテル倶楽部」には、34店が加盟(平成29年10月1日現在)。カクテルカーニバル(5月)・カクテルナイト(9月)などを開催します。

ジャズの街



▲11月初頭開催のミヤ・ジャズイン(写真は平成28年)

サクソの渡辺貞夫、ギタリストの高内春彦の両氏をはじめ数々のジャズミュージシャンを輩出してきた、宇都宮。現在も年間を通じ数々のジャズイベントが開催されます。

自転車の街



▲アジア最高位の自転車ロードレース「ジャパンカップ」のほか、さまざまな大会を開催

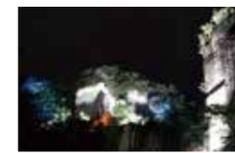
平坦地が多い宇都宮は、自転車を楽しむのうってつけ。自転車ロードレースで日本初の地域密着型プロチーム「宇都宮ブリッツェン」が拠点を置くほか、レンタサイクルや自転車の修理ができる「自転車の駅」を設置するなど、自転車を活用した街づくりを進めています。

大谷石の街



▲市内随所に大谷石を使用した建物が

加工しやすく独特な質感の大谷石は、旧帝国ホテルの建材としても有名です。現在も採石は続いており、大谷資料館や大谷観音、平和観音など関連した多くの名所があります。



▲大谷資料館・大谷景観公園で開催のフェスティバル大谷

●来らっせ

日本唯一の餃子の協同組合である宇都宮餃子会の直営店。常設5店舗や日替わり店舗では宇都宮の名店の餃子を食べ比べできるほか、餃子作り体験コーナー(要予約)、加盟33店舗の冷凍生餃子を販売するお土産コーナーもあります。



●餃子像

JR宇都宮駅の西口デッキに設置された大谷石の石像は、餃子の街の象徴。現代彫刻家・西松鉦二氏のデザインで、餃子の皮に包まれたピーナスをモチーフにしています。



●宇都宮二荒山神社

市の中心部に鎮座する古社は、約1600年前の創建と伝えられます。古くから下野國一宮といわれ、「うつのみや」の名は「一之宮」に由来するとする説もあります。社宝の「三十八間星兜」「鉄製狛犬」は国の重要文化財に指定されています。



宇都宮市の見どころ



●ほたるの里 梵天の湯

梵天の湯は、平成14年にオープンした、日帰り温泉と農林業交流施設からなる複合施設で、温泉施設部分には露天風呂のほか、砂風呂、寝湯、ジェットバス、などの施設がそろうています。



●道の駅うつのみやろまんちっく村

平成8年開園の農林公園ろまんちっく村を、同24年に道の駅としてリニューアル。46haの敷地に温泉施設のほか、地元の農産物がそろった「あおぞら館」、地元産食材や地ビールを味わえる「麦の楽園」が建ち並び、農産物の収穫体験などが催されます。



▲温泉施設ヴィラ・テ・アグリ

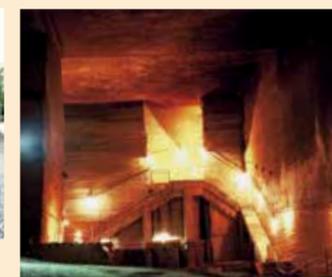
●カトリック 松が峰教会

国内では数少ない双塔を持つ近代ロマネスク様式の聖堂は外壁・祭壇の大部分が大谷石が使われ、現存する大谷石の建築としては最大級を誇ります。毎晩ライトアップされた姿も美しく、1998年には国の登録有形文化財に指定されました。



●大谷資料館

江戸時代から昭和34年頃までの、大谷石採掘の歴史がわかる資料館で、地下30mの地下採掘場跡は必見。コンサートや演劇、ショーの舞台などにも利用されます。



profile

●宇都宮市

江戸時代、宇都宮城を中心に日光街道・奥州街道の分岐点として栄えた一帯は、明治初期に宇都宮県が設置されました。栃木県と合併後も明治17年以降は県庁が置かれ、同29年の市制施行で宇都宮市が誕生しています。戦後は周辺町村との合併で市域が拡大するとともに工業団地の開発が進み、北関東最大の経済都市となりました。市制100周年を迎えた平成8年には中核市に指定されています。

▶面積: 416.85 平方 km
▶人口: 520,197人 (222,650世帯) (平成29年10月1日現在)